

科目名	教育心理学特講	担当者	トキタ 時田 ガク 学	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>近年教育を取り巻く環境の変化は激しいが、教育を効果的に進めていくためには、教育心理学的な視点から、現実場面の教育実践について考えることが必要になると推察される。本科目ではまず教育心理学の基本的な知識・理論を理解することを試みる。その上で、実際の教育場面の中で、教育心理学的な視点を応用し、具体的に展開するにはどのような方略の可能性があるかについて考えることを目的とする。</p> <p>心理学と教育学とは異なる視点を持っているため、教育心理学を理解するためには、心理学の基礎的な知識も必要となるため、必要に応じて心理学的知識の確認・拡充にも積極的に努めていただきたい。</p>		
到達目標	<p>①教育心理学の基本的テーマと考えられる発達の視点・学習の視点・集団の視点について、心理学の知見に基づいた代表的な理論を理解する。</p> <p>②学習を効果的に進める視点を心理学的に理解する。</p> <p>③集団を効果的に機能させる視点を心理学的に理解する。</p> <p>④実際の教育場面の中で、②・③の学習の成果を発展するための枠組みについて考察する。</p>		
学修方法	<p>教材を理解した上で、課題についてのレポートを作成していただきたい。作成したレポートについては、担当教員がコメントを付すので、そのコメントを基にレポートの修正を行っていただきます。このやり取りを繰り返し行って、レポートの作成を継続し最終的に提出をしていきます。</p>		
スケジュール	<p>前期：教育心理学の基礎的理解 課題1, 2はどちらから始めてもよい。どちらの課題も早めに第一稿を作成し（7月～8月中を目標）、担当教員のコメントを参考に、調整して、最終稿を作成する。</p> <p>後期：実践と教育心理学 課題1から初めて当該分野の理解を図る。その後、より実践的な課題2に取り組む。両課題とも早めに第一稿を作成し（課題1は11月中、課題2は12月中を目標）、担当教員のコメントを参考に、調整して、最終稿を作成する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>①課題に対応した内容となっているか</p> <p>②取り上げた理論などが適切に理解されて、自分の言葉で表現しているか</p> <p>③適切な具体例が示されており、根拠となる事実が明確であり、客観的な検討がなされているか</p> <p>④参考・引用文献が適切に表記されているか</p>
	平常評価	20%	<p>①コメントを理解しているか</p> <p>②理解したコメントに適切に対応しているか</p>
履修者への要望	<p>教育心理学の枠組みを捉えて、その中で、実際の教育の中で問題となっていることについて、考察できるようになることを望みます。</p> <p>また、我が国の教育ではあまり体験することの少ない手法についての理解も、理論を学び、その実践について考えられるようになることを望みます。</p> <p>課題レポート体裁等の詳細は、履修確定後に示すこととなりますので、よく理解して、進めるようにしていただきたい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊藤裕司 教材名： 『ベーシック現代心理学 教育心理学（第3版）』（有斐閣，2015年） ISBN:978-4-64-107245-9 2,100円+税
	教育心理学の基本的な知識を概括した入門書である。教育心理学の課題・立場・研究法に触れた後に、発達適応学級集団学習などの基本的理論と授業法，教育評価などについて，実際の活用を概観している。
参考図書	大村彰道（編）『教育心理学1-発達と学習指導の心理学』（東京大学出版会，1996年） ISBN:978-4-13-052072-0 2,500円+税 下山晴彦（編）『教育心理学2-発達と臨床援助の心理学』（東京大学出版会，1998年） ISBN:978-4-13-052074-4 2,900円+税 森敏昭・秋田喜代美（編）有斐閣双書『教育心理学キーワード』（有斐閣，2006年） ISBN:978-4-64-105885-9 1,900円+税
履修上のポイント	教材は，教育心理学について基本的な課題を扱ったものである。課題に関連する部分だけでなく，全体を通読し，教育心理学全体の理解に繋げていただきたい。さらに，参考図書を活用することを通じて，レポート作成を通じて，文献を調べる，原典に当たるなどの基本的と考えられる，レポート作成方法についても学んでいただきたい。
レポート課題 1	発達における代表的な理論1つ取り上げて，その理論について概説すること 留意点： 取り上げた理論が，教育心理学のどの様な領域のことであれば説明可能であるか，などを上げた理論について，概括すること。また，教材文書の直接引用は避け，取り上げた教材の基になっている文献に可能な限りあたり，レポート作成に当たること。
レポート課題 2	レポート課題1で取り上げた理論を基に具体的な教育場面を取り上げて，理論を基に説明せよ。 留意点： 初等中等教育の中で展開される教育実践に視点を当て，具体的な教育実践のなかで，教育心理学として，理論をもとに，説明を組み立ててみる。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 千葉ロール・プレイング研究会（著），外林大作（監修） 教材名： 『教育の現場におけるロール・プレイングの手引』（誠信書房，1999年） ISBN:978-4-41-440135-6 2,500円+税
	学習を進める上で，大切であると考えられる役割関係について，具体的な資料を示しながら，理論的背景を丁寧に解説し，具体的な実践方法もある程度網羅してある。事例研究では，少し年代的には古いがある程度，現場での取り組みについて，具体的な例を挙げて実践につながるようになっている。
参考図書	履修決定後指示致します。
履修上のポイント	ロール・プレイングは役割演技法と表記され，学習指導要領にも記載されている手法であるが，その効果的実践の効果を高めるためには，教育心理学的な基礎的知識を得ることが必要であると推察される。教材は，基本的な部分は網羅されていると考えられるので，参考図書と合わせて熟読していただきたい。また，具体的な実践も必須となるので，履修決定後必要に応じて指示致します。
レポート課題 1	学校教育場面の中で，ロール・プレイングを展開するとき，教育心理学的な視点を加味する必要があると考えられるが，その中で重要と考えられる点について論ぜよ。 留意点： 教育ロール・プレイングを行う場合，心理学的な視点を持って臨むことは重要であると考えられている。本レポートではその点を踏まえ，教育心理学という観点から検討する。
レポート課題 2	学校教育の中で人間関係を考える。①教師と生徒の関係 ②生徒と生徒の関係 のどちらかを選択し，それらの関係の中でロール・プレイングを行うためには，どのように進めればよいか，理論的側面（含教育心理学）と，具体的側面の両面から論じること 留意点： 教育実践の場における人間関係について，ロール・プレイングを基に教育心理学の理論を用いて検討することを通じて，理論と実践についての関係を考えることが可能となるようになることが目標である。